沖縄タイムス　－オフィスの窓から－

離島訪れ真の沖縄知る

沖縄の景気について定期的にお話を伺っている方から、毎回のように「いくつ離島に行かれましたか？」と聞かれる。残念ながら、その数はあまり増えていない。他の方々にも、できるだけ多くの離島に足を運んだほうがいいと勧められる。いったいなぜなのか。

沖縄は島しょ県で、沖縄本島も本土から相当離れている。離島を含む島しょ県だからこそ、良さもあり逆にハンディもある。離島はきれいな海に囲まれ、ゆったりとした時間が流れているのが常だが、同時に水の確保で苦労したり、遠くから電力を引っ張ってこなければいけなかったり、いざという時に頼りになる大きな病院がなかったりする。

日々の生活に必要な物資を運ぶという点でも、輸送費がかかり、物価も高くなりがちだ。経済の効率性の観点からは、いろんなものが 1 カ所に集中しているほうがいい。さまざまなコストをより多くの人で分担できるためだ。38 もの有人離島を抱える沖縄では、その点は期待しにくい。

一方で、本土から離れているが故の魅力を生かして、観光業をはじめとする産業は成り立っている。このように考えると冒頭の質問は、離島は沖縄経済の特徴を端的に示す縮図であり、各地域が持つ個性を直に感じ取ってこそ、真の沖縄を知ることにつながる―という地元の方ならではのメッセージなのではないかと受け止めている。

沖縄に来て約 8 か月がたった。県外から沖縄へ赴任した人と話していると、赴任中に沖縄の有人離島を全部回るとか、県内 47 の泡盛醸造所を全て回るとか、目標を立てている。自分にはとてもできそうにないが、各地でマラソン大会が開催されているようなので、その機会をとらえて、少しずつ訪問するのもいいかなとも思っている。これまでの沖縄でのさまざまな出会いに感謝するとともに、今後の新たな出会いや発見を楽しみに、もう少しあちこち出かけてみようと思う。

本コラムへの寄稿も今回で最終回。最後までお読みいただき、ありがとうございました。

（2024 年 3 月 24 日掲載）日本銀行那覇支店長　小島　亮太

https://www.okinawatimes.co.jp/category/FromTheOfficeWindow
<沖縄タイムスのホームページへリンクします。>